日本映画界のジェンダー不平等の原因と改善策

【概要】

映画界は、歴史的に見て人種やジェンダーの多様性が欠如していた業界の例として挙げることができる。アカデミーを中心とした世界の映画界では人種やジェンダーの多様性が欠如していたという問題があり、近年それが見直されつつある。この問題は日本においても例外ではない。日本の映画界では特に男女による格差は大きな問題となっている。世界的に見ても男女格差が大きい国として有名な日本では、映画界でもその傾向が顕著に表れている。世界の動向として多様性やジェンダー平等が叫ばれており、人々の意識の中でもジェンダー平等の必要性が常識となってきた中で、日本の映画界にもそれが求められる。しかしいまだに目立った改革が行われず、状況が改善できていないというのが現状である。昨今の映画界の多様性の動向に加えて、昨年日本の映画界で起こった有名監督と俳優による性被害の告発とも合わせて日本映画界は転換期を迎えているといえるだろう。

男女格差によって発生する問題は様々である。日本の映画界では、職場環境が男性に優位なものとなっており、業界で働く女性は苦しい状況を強いられ、能力を十分に発揮できない。そのような状態では、業界に入る女性が減ってしまい、さらに男女格差がひろがるという悪循環を引き起こしてしまう。また映画界に関して男女格差は業界内だけの問題ではない。男性だけで意思決定して映像作品を作ることで見落としがあったり、有害なアンコンシャスバイアス、ステレオタイプを再生産してしまう恐れがある。アンコンシャスバイアスとは人々が無意識のうちに持つ偏見である。映画界の男女格差は、その業界内だけの問題ではなく、作られた作品を見る人にも影響を与えかねない問題であり、早急な改善が必要な社会問題といえる。

そこでこの論文では日本映画界の男女格差の現状とそれを引き起こす要因を分析し、日本映画界に男女格差是正に向けて必要なことや改善策について考察する。その際に他国や世界的な映画祭、ディズニーの取り組みを参考にする。

第 1 章序論では、論文の概要を解説するとともに、映画界の多様性やジェンダー平等に関する動向を世界と日本で分けて示す。第 2 章では、日本映画界の現状について示し、分析する。2－1 で男女格差によって発生するハラスメントや性暴力の問題に触れる。2－2 では、日本の映画界で働く人々に関する統計データを用いて日本の映画界の男女格差を分析する。2－3 では日本映画界において男女格差が生じている原因を歴史的な背景から分析する。2－4 では、日本社会の男女格差を分析することによって日本映画界の男女格差へとつなげる。第 3 章では、世界の映画祭や国、またはディズニーなどが多様性やジェンダー平等に向けて行っている取り組みとその後の変化を示す。第 4 章では、2，3 章の内容を踏まえて、日本映画界の男女格差是正に向けて必要な対策を提案する。最後に第 5 章にて今後の課題を述べて終わりとする。

【参考文献】

水島和則、2022、主流アメリカ映画の人種表象における 多様性とインクルージョン ――ハリウッドの人種差別主義は変わったか――、椙山女学園大学研究論集、53、9－18.

木下千花、2020、＃MeToo 的映画史のために、映像学、103、22－28.

荻上チキ，2014,『ディズニープリンセスと幸せの法則』（星海社新書）星海社.